

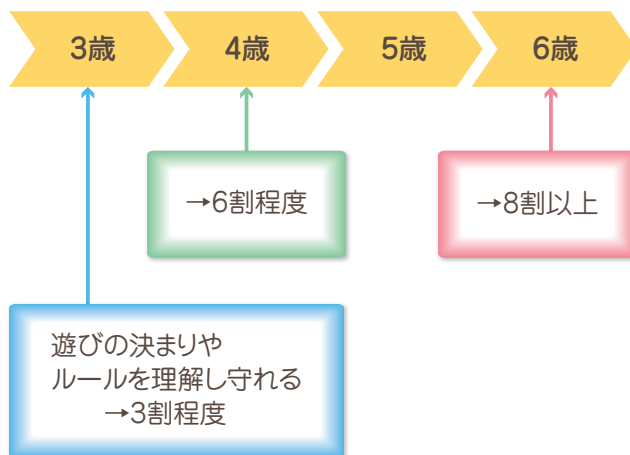
運動・スポーツの大切さを科学的に解説！

子供の発達特性 社会性の発達と運動

幼児期には、他者との関わりを通じて社会性が発達していきます。年齢とともに自分を抑えて友達を思いやり協調していく傾向が高まり、「決まりやルールを守る」「順番を待てる」「友達にゆずることができる」といった行動がとれるようになります。

成長に伴ってひとり遊びから協同的、組織的な遊びへと形態を転換させていきますが、その過程には集団内での役割の認識やルールや決まりの理解が必要になります。3歳頃には決まりやルールがわかって守れる子は3割程度ですが、6歳までには8割以上の子供が理解し守れるようになってきます。集団遊びの中では役割を分担したり協力し合うなど、遊びを発展させて楽しさを共有できるよう、自分たちでさまざまな工

幼児期における社会性の発達と運動遊び



夫を試みます。このような中で子供たちの社会性が育まれていくのです。

約束を 守ってみんなの 良い笑顔

今月の運動遊び

やってみよう!

お子様に紹介したり、一緒に遊んでみましょう

ケンパー

★特徴

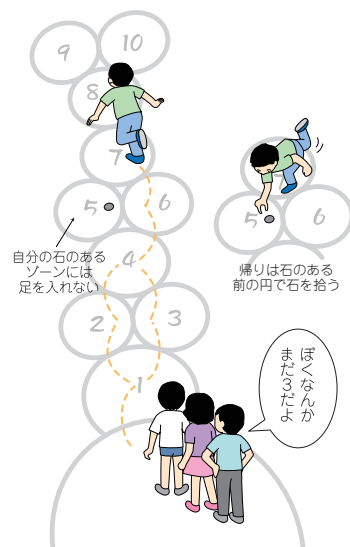
地面に複数の円を描き、そのうちのひとつに石を投げ入れ、その円は踏まないようにしながら片足(ケン)、両足(パー)で円を移動するゲームです。

★遊び方

- 1 円を地面に描いて、できるだけ平たい石を用意します。
- 2 順番を決め、最初の子がスタートラインから「1」の円へ石を投げ入れます。
- 3 うまく入ったら、最初の円を跳び越え、「2」と「3」へ両足(パー)をつきます。
- 4 その後は、片足(ケン)、パーを繰り返しながら、往復します。
- 5 帰りに「2」と「3」に足をついたときに、「1」にある石を拾ってスタートラインに戻り、次の人と交代します。
- 6 次に自分の順番が来たら、「2」に石を投げ入れます。それを「10」まで繰り返し、一番早く終了できた人が勝ちです。
- 7 狙った円に石が入らなかったり、跳び方を間違えたり、円からはみ出したりしたら、次の人と交代します。次にやるときは、先ほど失敗した円に石を投げ入れるところから再開します。

遊びの展開例

- 遠くの円に石を投げ入れることが難しいようであれば、「5」までで終了にするなど、短縮してやってみましょう。
- 幼児が遊ぶ場合は、石は使わないで、ケンパーのジャンプ移動だけにしてみましょう。



日本体育協会のACP総合サイト

遊び方を動画で確認できます。他にもたくさんの運動遊びを紹介しています。

ACP 日体協

検索